

備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

事業の概要		事業開始年度 平成17年度～		根拠法令・規程等	医療法	
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	備前市国民健康保険条例	
	中項目	基本施策	02	健やかに生き生きしたまちづくり	市立備前病院 事務部	
	小項目	施策	07	病院事業	医事係長 石原 高志	
事務事業名		03	備前病院診療事業		電話 0869-64-3385	
					このシート作成に要した時間	2.0 時間

事業の目的		Plan
対象 (誰・何に対して)	病気の予防及び治療を必要とする人	
目的 (何のために)	安心・安全で良質な医療の提供	
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	安心安全な医療が受けられる環境整備と良質な医療を提供し、患者数の増加を図り、経営基盤の強化を目指す。	

事業の実績			Do
細事業名	事業の説明	優先度	
収納事業/未収金	未収金の回収業務		
診療事業/入院	入院による診療サービスの提供		
診療事業/外来	外来による診療サービスの提供		
目的	健診事業/健診	住民健診・企業検診・人間ドックによる市民の健康管理の提供	
地域連携事業	病院と診療所での連携・病院と病院との連携・介護福祉施設等との連携を図り、患者さまにより良い医療サービスを提供		
相談事業	入院中や在宅での不安、介護施設利用などの相談業務		
その他医事	各種法令に沿った申請、届出等医療事務サービスの提供		
右欄の評価の説明			
妥当性評価			
備前地域での中核病院であり、救急告示病院である。病院の改築、高度医療機器も充実し救急受入・手術件数も増加している。健康教室の毎月の開催や女性外来、褥瘡外来など独自の医療サービスの提供を行っている。			
効率性評価			
電子カルテ導入により、印刷費、消耗品の費用抑制が図れた。院内での業務改善、サービス向上委員会を毎月定期的に開催し、患者満足度を高め市民が信頼して利用できる医療機関を目指す。			
有効性評価			
職員意識改革：職員に経営状況の理解を徹底し、年度ごとの経営計画を策定の上、経営目標を設定します。外科部門の充実が図られ、救急患者の受入件数、手術件数が増大し、病床利用率が改善され収益も改善された。患者サポート窓口、退院調整室、地域連携室など引続き強化し、地域連携の充実に努め更なる収益増加に努める。			

事業費等		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績			
決算額	直接事業費	千円	507,640	502,533	568,367			
	必要人員人件費	千円	98.18人	97.81人	108.95人			
	事業費計	千円	1,212,860	1,208,329	1,373,699			
財源	国県支出金	千円						
	受益者負担	千円						
	繰入金	千円	77,262	125,538	127,483			
	市債(償)	千円						
	その他( )	千円						
一般財源	千円	1,135,598	1,082,791	1,246,216				
受益者負担比率		%	-	-	-			
結果指標名		単位	平成22年度実績		平成23年度実績		平成24年度実績	
結果指標	結果指標量		入院	外来	入院	外来	入院	外来
	対前年比	%	24,446	48,613	23,354	48,474	26,347	54,752
	対前年比	%	102.6	97.4	95.5	99.7	112.8	113.0
	活動コスト	円	670,598,000	463,224,000	664,773,000	465,581,000	760,421,000	534,209,000
	単位当たりコスト	円	27,432	9,529	28,465	9,605	28,862	9,755

(平成24年度事業)

事業の成果	成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
病床利用率(%)		目標値(A)	78	79.6	81.1	83.3
		実績値(B)	67	65.1	80.2	到達目標値
		達成率(B/A)	85.90%	81.78%	98.89%	毎年度
成果指標設定の考え方・式や説明						
安定した病院経営をするためには、収益の確保と継続が重要である。このため、経営の効率化に経営指標(収支改善、経費削減、収入確保、経営の安定性等)の中から、収入確保に係るものとして病床利用率を成果目標として選択し、目標値を設定。 *病床利用率(%) = 入院症患者数 ÷ 診療日数(365日又は366日) ÷ ベッド数						

事務事業の評価		該当する項目を から へ < 「コピー」して「貼り付け」してください >	Check
妥当性の評価	市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない 事業の内容が一部の受益者に偏っている 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である 事業開始当初の目的から変化してきている 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高 低 い しい A
	市民ニーズ	単位当たりコストは前年度と比較して改善している 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある	効率性評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高 低 い しい
効率性の評価	コスト	コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい 受益者負担率は適正である 受益者負担率を見直す余地がある サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	C
	目的達成度	成果指標の設定は適切である 成果指標の到達目標値は達成できそうである 成果指標達成率は前年度と比較して向上している 成果指標達成率は80%未満となっている 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	有効性評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高 低 い しい C
有効性の評価	市民参画度		

進行年度(H25年度)の改革改善内容	
状況	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了
説明	収益改善に向けプロジェクトチームを設置した。各部署より業務内容を再度見直し、収益改善に向けた提案を提出させ検討実施する。 患者満足度向上のため、現況のサービスについてアンケート調査を実施。患者さま本位の病院機能充実に向け安心安全、信頼できる病院を目指し、患者数増加を図り安定経営に努める。

総合評価		B
外科医師確保により、救急受入件数、手術件数共に改善され病床稼働率が向上し収益の改善が図れた。新たな取組として、健康教室を毎月定期的に開催し地域住民の健康管理に定着してきた。女性医師による女性外来を新設し、婦人科受診率の向上や健康診断受診に安心感を与えている。褥瘡外来も新設し外来患者数の確保が図られ、収益改善が図れた。電子カルテ導入により印刷費や消耗品費の削減が図れた反面、待ち時間が長くなったとの苦情があり、患者さま満足度向上に努め、市民に信頼される医療機関を目指す必要がある。		総合評価 A B C D E 高や善や低い いや通やいい 高 低 い しい

平成26年度の方向性・取組目標		Action
方向性	拡充 現状継続 見直し 縮小 整理統合 休止 廃止・完了	
取組目標	市立3病院の経営形態を見直し、日生病院との経営統合や独立行政法人化を目指す。医師、看護師不足解消のため、勤務形態や勤務条件の改善に取り組む。医療情報ネットワークを推進し、救急病院との医療連携の充実を目指すし、市民に親しみ安心安全な医療の提供を実施する。	



が 事 業 の 有 効 性 を 評 価 し 目 標 値 に 留 意 指 針